

所 信 表 明 書

公立大学法人広島市立大学
理事長選考会議議長様

私は、公立大学法人広島市立大学理事長選考対象者になるに当たり、次のとおり所信を表明します。

令和4年8月31日

氏 名 若 林 真 一

(印)

私は公立大学法人広島市立大学第3代理事長に選考され、2019年4月より理事長・学長を務めてきた。理事長就任以来、本学の運営に全力を尽くし、第2期中期計画を無事完了し、第3期中期計画を策定するなど、一定の成果は挙げたと自負しているが、多くの課題にも直面した。特に、理事長就任の初年度末から国内外で爆発的に感染拡大した新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、授業のオンライン化、海外渡航の原則禁止による研究活動の制約、海外学術交流協定大学との学生交流の中断等、大学の教育研究、運営に大きな影響があった。結果的に理事長・学長として最も注力したことはコロナ禍への対応だった。

コロナ禍という緊急事態において、理事長・学長として多くの判断を行うこととなったが、大学執行部、事務局、教職員の理解と協力を得て、大体においては適確な判断と決定を行い、大学の使命である教育研究、地域・社会貢献を中断することなく大学を運営できたと考えている。

この度、再び推薦を受けて理事長選考対象者となったので、これまでの理事長・学長としての実績を踏まえ、理事長選考会議からの質問事項に回答する形で各項目に関する基本方針を以下に示す。

(総括)

- 本学の現状と課題をどのように捉え、将来像をどのように考えているのか。
本学の将来像については、2021年に「広島市立大学未来ビジョン」を策定する中で深く考察し、建学の基本理念「科学と芸術を軸に世界平和と地域に貢献する国際的な大学」、および「国際平和文化都市の「知」の拠点 一地域

と共生し、市民の誇りとなる大学一」(「広島市立大学あり方検討報告書」、2006年)であることを改めて確認した。

建学以来、この将来像を具現化することを一つの目標として本学は運営されてきた。特に、COC+事業を引き継いだ地域志向教育や地域貢献事業の拡充により、地域に貢献する公立大学としての機能は大幅に強化された。しかしながら、本学が真に「地域と共生し、市民の誇りとなる大学」となるためには、これからも弛まぬ努力が必要だと考えている。

この将来像を見据えた上で、本学が今後、特に注力して取り組むべき課題を4つ挙げる。1) 教育と研究の質の向上、2) 地域貢献機能の拡充、3) 平和に関する教育研究の強化、4) DXによる大学機能の高度化と効率化、である。また、これらを実現するための大学教職員の意識改革も必須である。

以下、分野ごとに基本方針を述べる。

(教育)

●学修者本位の質の高い教育を推進するため、他大学には無い本学ならではの特色ある教育について、どのように取り組んでいくのか。

本学の学部教育においては、地域貢献人材育成、グローバル人材育成、リーダー人材育成を特色ある教育として掲げている。また、各学部・研究科の専門教育もそれぞれ特色を持つ。今後も特色ある教育を推進していく。

一方、大学院教育を含め、これまでの本学の教育は学修者本位の教育の観点からは課題がある。また、文理融合人材や Society5.0 に対応するデジタル人材等の育成も急務となっている。

そこで、全学共通教育の見直しと再編を実施すると共に、基盤教育センター(仮称)を設置し、教育マネジメントと教育に関する内部質保証体制を確立することで、教育内容のより一層の充実と質向上を図る。

(研究)

●研究活動の活性化及び研究の質の向上を図るとともに、研究成果を地域や社会に還元するため、どのように取り組んでいくのか。

本学の研究は長期的な低落傾向にあり、抜本的な対策を取る必要がある。大学の方針として質の高い研究を奨励することを明確に掲げると共に、研究実施に係る様々な支援を充実し、研究成果を挙げている教員への教員研究費の配分を増やすなどのインセンティブを拡充する。

研究成果の地域・社会への還元を拡充するため、社会連携センターを改組す

る。特に地域への研究成果の還元に関しては、大学と地域の自治体・企業との関係をより密接にすることで、これまでよりもきめ細かく、幅広い還元を実現する。

(地域・社会貢献)

●広島広域都市圏で活躍する人材の育成並びに都市圏の活性化及び持続的発展に貢献するため、どのように取り組んでいくのか。

本学は正課内および正課外において多くの地域貢献人材育成プログラムを実施しており、これらの多くは対象地域を広島広域都市圏としている。今後も地域貢献特定プログラムの履修者数を増やす工夫をするなど、地域貢献人材育成に注力したい。

地域の活性化と持続的発展に一層の貢献を行うため、社会連携センターを改組し、大学の社会貢献機能を強化する。

(平和)

●都市像に「国際平和文化都市」を掲げる広島市が設立した大学として、平和の創造や世界平和に貢献するため、どのように取り組んでいくのか。

広島平和研究所および大学院平和学研究科の広島大学旧理学部1号館への移転は決定しているので、移転を前提として平和に関する教育研究機能の強化を図る。また、広島大学および地域の大学と連携し、平和に関する世界的教育研究拠点の形成を図るため、具体的な対応を早急に進めたい。

(国際化)

●多様性を尊重し、幅広い視野を持って行動し、国際社会で活躍できる人材を育成するため、どのように取り組んでいくのか。

コロナ禍を契機としてオンライン国際交流が充実した。今後は、海外学術交流協定大学との学生交流だけでなく、オンラインを含めて多様な形式の国際交流の充実を図る。また、国際学生寮「さくら」の活用等により大学キャンパスの国際化を推進することで、多くの学生がグローバル意識を持つようにする。

(大学運営及び法人経営)

●戦略的、機動的かつ効率的な大学運営を行うため、どのようにリーダーシップを発揮し、どのような中長期的かつ経営的な視点で取り組んでいくのか。

●経営的な視点でコスト意識を持って大学運営を行うため、自己収入の増加

及び運営経費の見直し等について、どのように取り組んでいくのか。

●女性教員の積極的な採用等のダイバーシティの推進について、どのように取り組んでいくのか。

18歳人口の減少など、大学を取り巻く環境は今後、益々厳しくなると予測される。そのため、10年先を見越した大学運営を行うことを心掛ける。すでに大学業務の見直しと効率化はある程度は進んでいるが、今後はDXとIRに基づく大学経営を大胆に進める。

大学の財務内容は、近年、運営交付金と外部資金の減少等で悪化しており、早急な対応が必要である。これまでも様々な外部資金獲得施策を実施しているが、効果は限定的だった。今後は大学予算の見直しなど、抜本的な対策を取る。外部研究資金については研究活性化と密接な関係があるので、研究活性化にも注力する。

ダイバーシティの推進については、まずは女性教職員の意見を聴取し、その上で実現可能な対応を着実に進めていく。近年、学生に対するハラスメント事案が複数生じたことはまことに遺憾であり、すでに多くの対策を取ってきたが、今後もさらに対策を強化する。

最後に、2024年に本学は開学30周年を迎える。開学30周年を将来に向けての新たなスタートラインと位置付けて周年記念事業を実施する。また、開学30周年を機会に、同窓会執行部と共同で同窓会の組織と活動を抜本的に強化し、同窓生の大学への帰属意識を高める。

※所信には、公立大学法人広島市立大学の将来ビジョン並びに教育、研究、社会貢献、大学運営及び法人経営の基本方針について、3,000字以内で記載してください。

※理事長候補者の選考過程において、この所信表明書は公開されます。